

1 課題名 栽培漁業推進対策

2 区 分 県単

3 期 間 昭和59年～

4 担 当 養殖栽培部（濱地寿生・坂本博規）
資源海洋部（土居内 龍）

5 目 的

栽培漁業の推進を図るために対象種のマダイ、ヒラメ、イサキ、アワビ類について放流種苗の混獲状況等を把握し、放流効果を検討する資料とする。

6 成果の要約

(1) 調査方法

ア 放流種苗調査：マダイ・イサキは鼻孔隔皮の欠損、ヒラメは無眼側の体色異常を標識として放流種苗の有標識率を調べた。

イ 漁獲物の標識魚混獲率調査：マダイは雑賀崎漁業協同組合（以下、漁業協同組合は漁協と略記する）、湯浅湾漁協本所に水揚げされた0歳魚の標識魚（鼻孔隔皮欠損魚）の混獲率を調べた。

ヒラメは雑賀崎漁協、湯浅湾漁協本所、比井崎漁協、紀州日高漁協南部町支所の水揚げ魚の標識魚（無眼側体色異常魚）の混獲率を調査した。

イサキは和歌山南漁協本所の水揚げ魚の標識魚（鼻孔隔皮欠損魚）の混獲率を調べた。

アワビ類は加太漁協、和歌山東漁協下田原支所において水揚げ貝の殻頂部を削り人工種苗由来のグリーンマークの出現割合を調査した。

(2) 成果の概要

ア 放流種苗調査：マダイの有標識率は和歌山市加太放流群（尾叉長74～99mm、調査数198尾）で、13.6%と前年の5.7%に比べ増加した。

ヒラメ放流種苗の有標識率は由良町放流群（全長47～86mm、調査尾数250尾）、みなべ町放流群（全長63～102mm、調査尾数112尾）とも100%であり、調査した放流種苗すべてに無眼側の体色異常が認められた。

イサキの有標識率は田辺市放流群（尾叉長33～51mm、調査尾数113尾）、すさみ町放流群（尾叉長40～80mm、調査尾数108尾）の加重平均が19.1%と過去5年間（19.2～57.6%）に比べ最も低くなった。

イ 漁獲物の標識魚混獲率調査：マダイの混獲率については、種苗放流が秋に行われたため冬季に調査を予定していたが、秋期以降0歳魚の漁獲が少なく、標本魚の入手が困難で調査ができなかった。

ヒラメの混獲率は、雑賀崎漁協（11～3月、調査尾数558尾）で8.1%、湯浅湾漁協本所（周年、調査尾数866尾）で11.8%、比井崎漁協（9～3月、調査尾数1,556

尾）で11.8%、紀州日高漁協南部町支所（9～3月、調査尾数5,793尾）で7.0%と全ての調査漁協で前年を上回った。

和歌山南漁協本所におけるイサキの標識魚混獲率（4～3月、調査尾数1,260尾）は0.4%で前年の0.6%に比べ減少した。標識魚は、2歳魚4尾、4歳魚1尾であった。

加太漁協におけるアワビ類の混獲率は、クロアワビ（調査個数57個体）で33.3%、メカイアワビ（調査個体数74個体）で73.0%となり、前年よりクロアワビは増加したがメカイアワビは減少した。和歌山東漁協下田原支所における、メカイアワビの混獲率（調査数207個体）は62.3%で前年の64.3%とほぼ同様であった。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

各々の調査で各漁協に赴いた際に漁協職員や漁業者に調査結果の概要を説明した。

(2) 成果の発表

和歌山県栽培漁業推進協議会